

校長室だより～和光高校今昔 第32号 H26.12.12

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

和光高校生徒会長の系譜

突然の衆院選の最中、平成26年12月4日（木）、第44代目となる会長を含む和光高校生徒会役員選挙が実施された。これを契機に和光高校生徒会の歴史を辿ってみることとする。

和光高校歴代生徒会長

代	年度	名前	代	年度	名前
1	昭和47	淵田昌嗣	23	平成6	北川祐吾
2	昭和48	淵田昌嗣	24	平成7	林 一行
3	昭和49	重田整孝	25	平成8	伊東輝高
4	昭和50	富沢信義	26	平成9	本田正人
5	昭和51	永井良隆	27	平成10	二宮裕美子
6	昭和52	宇吹博志	28	平成11	田中香菜莉
7	昭和53	浅田武志	29	平成12	内田真弘
8	昭和54	金子晴夫	30	平成13	大柿勇太
9	昭和55	西岡達士	31	平成14	細野 陸
10	昭和56	鈴木浩文	32	平成15	加藤康寛
11	昭和57	高橋美光	33	平成16	田倉由香利
12	昭和58		34	平成17	渡部紗弓
13	昭和59	松野 朗	35	平成18	足助友也
14	昭和60	富岡義仁	36	平成19	高田龍之介
15	昭和61	松原唯文	37	平成20	栗飯原尚美
16	昭和62	細野哲也	38	平成21	岩崎 健
17	昭和63	伊倉香津美	39	平成22	宇田川美緒
18	平成元	竹森大二郎	40	平成23	久保麻莉菜
19	平成2		41	平成24	大川内麟太郎
20	平成3	白石朋康	42	平成25	下平ジェーンマリエール
21	平成4	河野智成	43	平成26	吉澤賢一
22	平成5	松村浩一	44	平成27	千葉愛羅

上記の表は歴代の会長を示したものである。今回信任された千葉愛羅さん（2-2、和光二中出身）が43代会長の吉澤賢一君（3-6、和光三中出身）を引き継ぎ新会長となることが決ま

った。さて、昭和58年度と平成2年度の空白が気になるところである。実はこの2回については会長立候補者が出ず、それぞれ1年間副会長が代行していたのだ。もちろん選挙は複数回行っている。こうした潔さは実は和光高校生徒会の伝統であって昭和58年前後には4、5回候補者を募った年もあった。なにしろこのあたりの生徒会本部はやたら忙しかった。文化祭はもちろん



体育祭、球技大会、合唱大会、三年生を送る会、若樹編集などなど、とんでもない係わり方だった。少し前の自主性や自治を育てようとする一部の思惑からやたら仕事量が増えていった結果である。スポーツが盛んだったこともあり活発な生徒は間違いなく運動部に所属し、ややおとなしい生徒たちが生徒会で活躍していたようである。顧問も含め大変な苦勞だったと思う。

昭和63年の伊倉さんは初めての女子会長だった。「若樹」でも自身このことに触れこのようにあいさつを結んでいる。

「……最後になりましたが、和光高校始まって以来初の女生徒会長ということに誇りをもちながら、一生懸命がんばりたいと思います。」

実に力強い。以来今期千葉さんまで10名の女子会長が頑張っている。もう一つ気になるのは、連続で会長になるのが1期生の淵田さんを除き皆無だという事。激務からなのか、下級生がやりにくいからなのか、むしろ他校と較べ珍しいのではないかと思う。和高生徒会は会長を中心に副会長・書記・会計・監査委員が一枚岩となって執務に当たる。その意味で期ごとのチームワークが強固となり、年が変わると新たなチームとして頑張っていることがその答えかなと考える。

若樹などの記録を見る限り、困難の大きさに比例して文化を生み出しているようだ。最近では大川内麟太郎君が特筆される。企画運営に優れた発想を表すだけにとどまらず八面六臂の活躍、とりわけ彼の描いた文化祭ポスターは秀逸である。大学3年生の現在建築方面の才能を磨いている。彼に限らず、また会長のみならず留まらず高校時代に培った様々な生徒会活動での経験が、社会に出た後で花開きさらなる活躍に結びつくことを願い確信している。

